

県内で農業や工業、商業などを学ぶ高校や特別支援学校の生徒らが学習成果を発表する「えひめ産業教育フェア」が10月3日、松山市総合コミュニティセンター（同市湊町7丁目）で開催される。生徒が手がけた食品や農産物などの展示販売も予定されている。

伊予農業高（伊予市）は「伊予農クッキー」やジャム、野菜の販売を準備している。



えひめ産業教育フェアに向けて ① 伊予農クッキー

作る。地域や学校で育てた農産物を活用し、商品づくりにつなげている。

展示販売はほかに土居高、八幡浜高など15校が予定している。

フェアは、2027年10月に開かれる「第37回全国産業教育フェア愛媛大会」

レシピ 60年 不変の人気

伊予農クッキーは、食品化学科の生徒らが担当。レシピは60年以上受け継がれており、学校祭での販売時は朝から行列ができるほど人気だ。かわいい花形で、昔ながらの親しみやすい味。卵を使っておらず、卵アレルギーの人も楽しめるという。

作る際は、手指の消毒やマスク着用など衛生管理を徹底。同科3年の島津萌花さん(17)は「安心しておいしく食べてもらえる商品を届けたい」と意欲を口にする。

ジャムは生徒が地域の農家を訪れ収穫した果実や、学校の果樹園のかんきつで作る。



伝統の伊予農クッキーを手に笑顔を見せ、製造に励む生徒
(撮影＝松山工業高・矢埜心結)

目線



取材班

印象的だったのは、クッキーは「一番の自信作」という生徒の言葉。自信と誇りを持って作っていることが伝わってきた。フェアに参加する生徒たちの工夫や思いを、多くの人に知ってもらいたい。

(だ)

高校生記者の活動は愛媛新聞ONLINEで随時更新。

のプレ大会でもある。生徒実行委員会委員長の近藤燈和子さん(17)＝松山商業高2年＝は「専門科目を学ぶ学校の魅力や、愛媛の良さを多くの人に伝える来年の本大会を盛り上げられるよう、PRしたい」と力強く語った。

(新居浜商業高・大塚光姫、澤田真央、東予総合高・佐々木大輔、松山工業高・原田冬琉)

〈随時掲載します〉